西高校生レポート

西高農場は、地域とともに先端技術の研究・研修、憩い、自然とのふれあいの『場』として開放しています。

ねぎの定植作業

生物資源系列野菜栽培専攻の生徒は、能代市農業技術センターと共同でねぎの試験栽培を毎年行っています。能代市の特産品である、ねぎの育成アドバイスを技術センターの職員から学びながら、将来の担い手としての栽培技術の知識と経験を培っています。

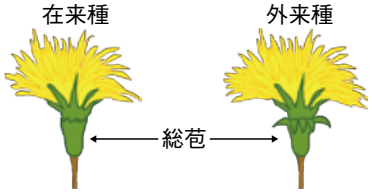
４月24日には、８月に収穫するネギの定植作業を能代西高の圃場で行い、夏扇パワーや関羽一本太など様々な品種のねぎを植えました。技術センター職員から機械の使い方などを学んだあと、畝立てや肥料の施用を行い、約５アールの圃場に苗を定植しました。

今回定植したねぎは、８月の収穫予定で、今後は白根の部分を確保するために４～５回の土寄せ作業を行い、生徒らは栽培管理に励んでいきます。

←技術センター職員から指導を受けます

←生徒主体で作業は行われます

在来種と外来種の違い



カントウタンポポ
カンサイタンポポ
シロバナタンポポ

セイヨウタンポポ

総苞（そうほう）と呼ばれる花をまとめる部分に違いがある。セイヨウタンポポは端（総苞片）が反り返っている。花びら（花、舌状花）もセイヨウの方がやや多い。

ＦＦＪ環境調査

日本学校農業クラブ連盟（ＦＦＪ）は、昭和25年「科学性」「社会性」「指導性」の育成を目標に、日本全国の農業クラブの全国組織として結成されました。現在では、全国370校以上の農業高校が加盟し、能代西高校もその１校です。

ＦＦＪでは、平成12年から全国規模の環境調査をしており、花や昆虫、鳥などの実態について調査しています。今年度は、タンポポの在来種と外来種について調べています。

能代西高では、４月27日に農業クラブに所属している生徒が敷地内を調査しました。多くのタンポポを調査した結果、そのほとんどが外来種であるセイヨウタンポポであるということがわかりました。

今後は、外来種が増えた要因などについて研究を深め、地域の自然の実態を理解し、自然環境の変化について学んでいきます。